

会議録	日時 令和5年8月29日(火)14:00~15:00	場所 沼津フジビューホーム 地域交流室	書記・記録 下田 美鈴
会議名	第1回 地域密着型 運営推進会議		
出席者	福田 和男 様 (門池地区連合自治会長) 川島 哲也 様 (門池地区社会福祉協議会企画委員長) 杉澤 雅紀 様 (柏葉尾6班副組長) 河野 義文(駿河厚生会 理事長/沼津フジビューデイサービスセンター管理者) 中世古 彰(かどいけ地域包括支援センター職員) 廣瀬 麻美 (沼津フジビューデイサービス認知症対応型生活相談員) 下田 美鈴 (同認知症対応型介護職員) 谷川 美穂 (同認知症対応型介護職員)		
式次第	資料参照のこと		
議題	内 容		
1. 開会 2. 出席者紹介 3. 利用状況 利用実績の報告 活動状況報告 毎月の行事 4. 苦情報告 5. 事故その他報告 要望・助言 意見等	<p>廣瀬「令和5年度の1回目、認知症対応型さくらの運営推進会議を始めます。よろしくをお願いします」</p> <p>出席者の方に、それぞれ自己紹介を頂いた。</p> <p>別紙参照</p> <p>廣瀬「要介護1、2の方の利用が多い。亡くなった方もいて利用者が減っている。80代90代の利用者が減る一方で、60代の方が2名入り、若い利用者が増えている印象がある。」</p> <p>廣瀬「コロナが落ち着いたところで、イベントが復活してきた。マスクは外せずにごじんまりとやっている。新しい試みとして父の日、母の日イベントで家族にも声をかけサントムーンへおやつを食べに出かけた。一部の方が参加され「気晴らしになった」と好評に終わった。イベントは定期的に行っていく。新しい企画も考えていきたい。」</p> <p>廣瀬「6月ドライブ、7月買い物、8月フルーツ寒作りなど行っている。麻雀はできなくなってしまったがパイを触る、片付けるなどをやってもらっている。認知症の方はその日によっても体調が違うため家族に確認をとりながら対応している。」</p> <p>廣瀬「おかげ様で、ありませんでした。」</p> <p>廣瀬「4件あった。繰り返し起こさないように情報共有をしている。」</p> <p>福田「この中で注意する点は？」</p> <p>中世古「認知症の方は、薬を飲まれている方が多く、眠気を引き起こすものが多い。薬の情報をその都度もらい状態を知ることが大事。注意をしていくのが一番。」</p> <p>理事長「大事なのは見守り、寄り添う、事故のないように過ごしてもらうということを徹底する。」</p> <p>福田「コロナ対策の話がされてないが、どのようにしているか。」</p> <p>廣瀬「お迎え時の体温測定、手指消毒を行ってから乗車していただいている。送迎後の車は手が触れるところは全て消毒をするということを徹底して続けている。体温が37.5度以上ある方は看護師の指示を受けご利用の可否の判断をしている。健康チェック表に基づいて体調の確認をしている。最近、体内のこもり熱で、老々介護の家庭、温度管理が出来ていない部屋にいる方、衣類の調整が出来ていない方、独居の方などの熱中症リスクもでてきている。体内のこもり熱の体温を下げてから再度おむかえに行くなど対応をしている。」</p> <p>川島「送迎時、車外にでしてしまうことがあることに驚いた。他の施設の事故報告で聞いたのは玄関から出て行ってしまったという事故。見守りが大事なことだと分かった。」</p> <p>廣瀬「車椅子の利用者の家の前が坂道になっているため、職員が二人で対応し送迎をしていた。「開けないだろう」「降りないだろう」という思い込みは危険だと痛感した。」</p> <p>杉澤「職員と利用者が散歩しているのを見かけることがあった。歩道などで草が生えて歩きにくいところがあったら、自治会に伝えるので教えてください。」</p> <p>廣瀬「地域の方々に見守られてありがたいです。防災の話は何かありますか。」</p> <p>杉澤「10年ぐらい住んでいるけど、よくわからない。」</p> <p>理事長「ここでは福祉避難所として災害時の対策をしている。地域の第一避難所は沼津高専、第二避難所として当施設があります。」</p> <p>福田「今の防災の考え方は在宅避難。自宅が倒壊などの危険がなければ家で大丈夫。避難所には全体の5%しか入れないので、家の耐震診断を受けて、リフォーム、家具の固定、一階で寝ないなど、また日頃から避難訓練に参加をしておくことが大事。」</p> <p>廣瀬「柏葉尾苑もできたことで、9/1の防災訓練の参考にさせていただきます。ではここでさくらの活動している写真をご覧くださいと思います。お花見、運動会、レクリエーションなどの活動の様子です。ルールが把握できなくても職員が付き添い、男女関係なく参加されている。「男の料理の日」には料理もやってもらい洗濯物も畳んでいます。畑で作物を作り、収穫して料理もしました。多施設でもお若い方の利用や相談は増えていますか。」</p>		

議 題	内 容
6.休憩	<p>中世古「最近は以前に比べると、60代の若年性認知症の相談が増えてきた。高齢者が多いデイサービスに行くのはまだ早いと考えるためか利用にはつながらない。認知症カフェなどを勤めている。年代が合わないことで行き場がないことは課題だととらえている。」</p> <p>福田「昔は、認知症といえど手に負えないとか、恥ずかしくて声をあげられなかった。これからの施設はどのように対応していくのか。」</p> <p>中世古「認知症を隠したかった時代があったが、介護保険サービスが始まってデイサービスの利用や認知症の予防など家族の意識も変わってきている。隠すと有事の時に困る。家族だけだと協力を得られない。みんなで支えあう地域ケア会議など地域を巻き込んでやっていきたい。地域の力はいい方向に向かっている。」</p> <p>福田「世間一般に当事者意識の少ない方が多い。さくら、ききょうにこだわらず行事をしても良いと思う。地区としては専門性にすぎるしかない。ホームページなどで施設のやっていることについて情報発信をしていないのか」</p> <p>理事長「機関誌で情報発信している。ホームページもありカラーで見やすくしている。」</p> <p>福田「知らなかった、ありがたい。ここにできて20年福祉の財産、みんなに知ってもらいたい。異業種などにも知らせたい。グループの状況はわかった。これからは予告として前面に出していくのが有効ではないか、情報の共有になる。タイムリーなものを出すほうがいい。」</p> <p>機関誌ことぶきを見ていただく。</p> <p>理事長「内々でやっている機関誌です。」</p> <p>廣瀬「ご利用者のみにお渡ししています。」</p> <p>理事長「広報活動はできると思います。」</p> <p>福田「時代は変わってきている。防災は地域の強み、行政の力を借りたらどうか。町づくりに「防災」と「福祉」は切り離せない。」</p> <p>デイ利用者様のお手製のフルーツ牛乳寒天を出席者に振る舞う。 おやつを頂きながら意見交換をする。</p> <p>川島「もし地震がきた時は、家族が迎えに来るのか。」</p> <p>廣瀬「老々の家庭や独居のお宅は迎えに来る足がない。送っていいのか心配になる。実際は状況が落ち着いたら自宅まで送っていくことになると思われる。」</p> <p>川島「他の施設でも独居の方は、心配で帰せないと言っていた。」</p>
7 スタッフ紹介	<p>廣瀬「年度が変わって職員も変わりました。さくらの相談員になり5～6年経ちました。長年の変化もありましたが、利用者さんとお話をさせてもらってかかわることで、とても楽しくさせてもらっています。これからもよろしく願います。」</p> <p>下田「ききょうからさくらに変わり、利用者さんとじっくりとかかわる時間が増え、ご家族としっかり情報共有できるようにようになりたいと思います。利用者さんが多くの活動ができるように3人で協力して行こうと思います。」</p> <p>谷川「入居の仕事が長く、デイサービスは初めてです。デイサービスは利用者さんとの距離が近く、一人ひとりをしっかり見れることができとてもやりがいがある場所だと思います。認知症の方に関わるのは初めてですが、これから勉強していきたいと思います。」</p> <p>廣瀬「3人メインでやっているが、情報共有をして利用者さんのためをモットーにこれからもやっていきます。」</p> <p>理事長「6班の方から歩道のことを気にかけてもらいました。今までやってきた自立、重度、軽度デイ、包括支援センター、保育園などひと通りあるが地域の方に利用してもらう。社会福祉法人がどこまでできるか、すり合わせをしながらやっていきたい。こうして運営会議で地域の方に来ていただいて、話し合うのが大事です。」</p>
8 閉会	<p>有難いお言葉をありがとうございます。貴重なご意見をありがとうございました。 今後とも、安全で楽しい場の提供を心がけていきますので、よろしく願います。</p>